対馬　洲藻白嶽

【報　告　者】Ｎ谷、ＢＢ
【日　　時】平成２５年６月８日～９日
【天　候】曇り
【参　加　者】ＢＢ、Ｍ下、Ｋ崎、Ｎ谷

≪コースタイム≫

１日目　０：１０博多港発→４：４０対馬(厳原港)着→７：００厳原港発→８：１０白嶽登山口→９：３０白嶽頂上～１０：３０頂上発→１１：３０登山口着→昼食～風呂～買出し～１６：５０鮎もどし自然公園着

２日目

１３：００対馬(厳原港)発　→　１５：２５博多港着

≪　報　　告　≫

■　１日目（西ノ谷）

一度行ってみたかった対馬。今回梅雨の真っ只中でしたが、２日前時点の天気予報は晴れのち曇り。期待に満ちて深夜、博多港からフェリーに乗り込む。　そそくさと就寝体制を取る乗船客に気を使いながらプチ宴会開始。つまみはM下さんからのサプライズ土産『馬刺し・砂ずり・鶏のたたき』でスタート。途中船内からデッキに場所を移し２時までの宴、そして就寝。４：４０に厳原港に着き７時まではフェリー内で休憩が出来ました。その後レンタカーを借りて白嶽登山口まで移動。登山口までは道幅が狭くすれ違い困難なため注意が必要です。

登山口の標高は５０ｍ、頂上は５１９ｍ。古くから霊山として崇められ九州百名山でもある白嶽登山スタートです。序盤は沢沿いの緩やかな登山道を順調に歩く。しばらくして２頭の鹿が出没。まさかの出会いに気分もアガル！

登山道は緩やかで歩きやすいですが、終盤に急な岩場が続きます。ウエットで滑りやすい状態でしたが、しっかりとしたロープもあり８０分程で頂上の岩場に到着。しかし、ガスっていて視界は悪い。結局４０分程粘りましたが、海までは見えず。一瞬東岩峰が見えた時には歓声が上がりましたが短い時間でした、、、、

その後岩のテラスに移動して休憩。そして下山～１時間程で登山口に到着。

岩場あり、原生林あり、沢ありの対馬を代表する山白嶽。天気が良くて視界の効く日に再チャレンジしたいと思わせる山でした。

下山後は厳原港近くのメインストリート(多分)で新鮮な魚料理の飲食店を散策。しかし、１件も見つからず、、、商店街も寂しい状態で目立つのは韓国人観光客ばかり。河口付近の川で泳ぐフグを眺めながら諦めました。(普通の食堂)

その後真珠の湯温泉４００円にて汗を流しスーパーで食材の買出し。そして宿泊地の鮎戻し自然公園キャンプ場に移動。この公園の見所はＳ字状に削られた岩の上を流れる清流と小さな滝のような形状の川です。本来こちらのキャンプ場は夏場のみの営業。なので他に人はいず貸切状態でした。テント１張り６００円。しかし

我々は道路沿いに小屋を発見。
結局そちらを拝借しテントは張らずじまいでした。夕食は隣の芝生の上。料理とお酒を楽しんだ後はその小屋で就寝。熟睡～～ＺＺＺ　　ちなみに夕食は島魚の刺身・対馬牛の焼肉・特製鍋。中でもイカの子(卵巣)は濃厚でプリプリの食感。初めて食べましたが絶

品でした！

■ 2 日目（ＢＢ）

6 時起床。時おり強風が吹いて霧雨のような雨が落ちたり落ちなかったり微妙な天気。「どうしますかねぇ～」なんて言いながらも、龍良山に登ったら下山後は温泉に入る時間がない（すでに前日、高速船で帰ることで合意しており、12 時までにはレンタカーを返却しないといけない。）し、おみやげ買いたいし。。。前日のお鍋の残りを食べながら、山岳会として不本意ではあるが、帰りまでの時間は観光しようと合意した。（ホントは、起床を 6 時にした時点でアウト！である。）みんな大人でよかった。最後に K 崎さんが、お世話になったテン場をほうきで掃いてくれて、感謝の気持ちいっぱいで出発した。途中、朝市で大きなサザエを購入し、近くの海岸で刺身にして食べることに。ところが石で叩き割っても核心部が身から離れてくれず大苦戦。お互い（人間もサザエも）必死。N 谷さん、K 崎さんが苦戦する中、みなさんご想像のとおり M 下さんはいち早く身を取り出し、海水で味付けして胃に収めた。対馬での大仕事を終えた私たちは高速船に乗りこんだ。

◇ 次回のために◇

- 天気が安定しているときに行く
- 炭が使えるところでテン泊して、海の幸やら対馬牛で BBQ したい！（食材はスーパーで買える）
- 登山靴を持参する（白獄は水が染み出ているところもあり足元がすべる）
- 外食前提では食べ損ねる（特にランチは営業していないお店が多い。スーパーでお惣菜など購入した方がいいかも。）